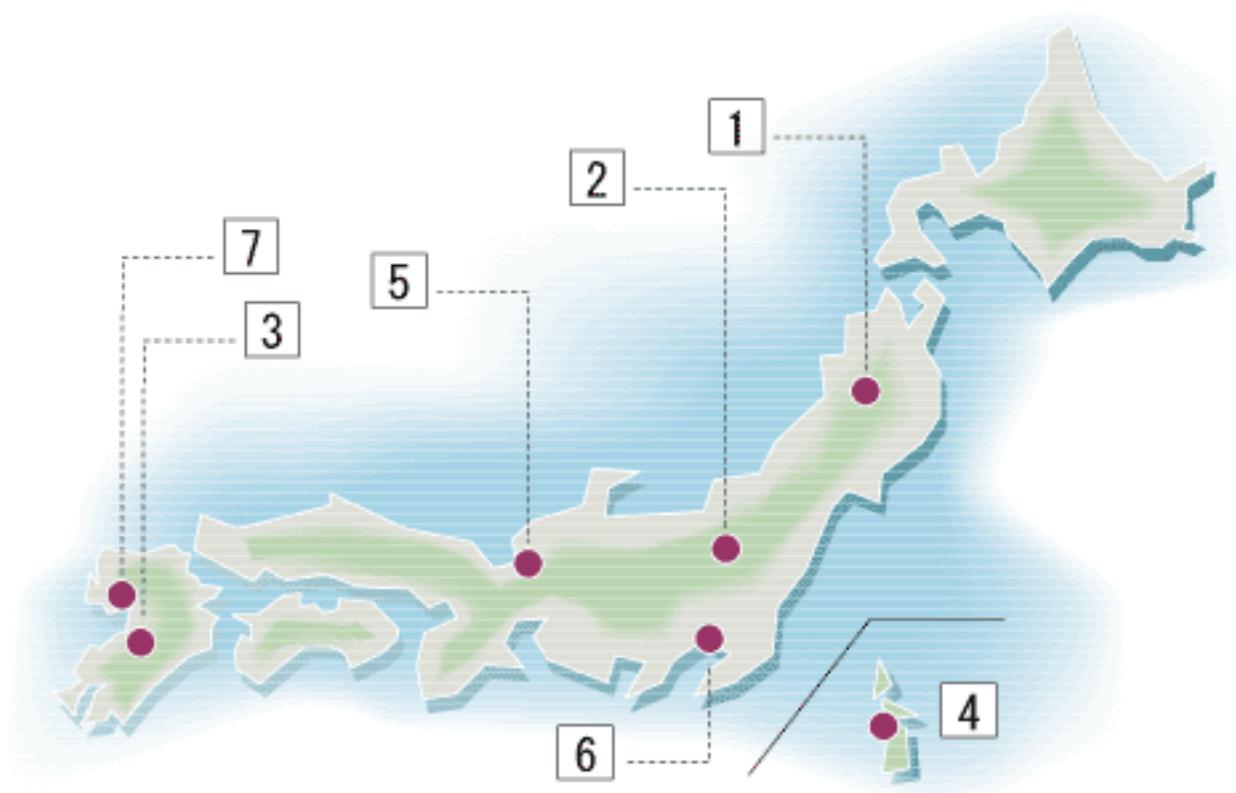




10年かけてここまできました。  
あの海辺、この森林\_\_\_\_\_



map **6** 千葉県三番瀬の干潟・・・埋め立て計画を回避、東京湾の自然のめぐみが残った

740ヘクタールの大規模な埋め立て計画が発表されて以来、研究者や地域の会員の方々とともに三番瀬の価値を明らかにし、計画の見直しを粘り強く主張し続けてきました。そうした中、計画は何度か縮小・変更されてきましたが、ついに2001年9月、県は埋め立ての中止を表明。現在は、干潟の自然を生かした地域づくりへの話し合いが始まり、NACS-Jもその場に参画しています。

map **4** 小笠原諸島の兄島・・・空港建設は中止、世界でここにしかない環境はそのままに

1988年に東京都が発表した小笠原兄島での空港建設。「東洋のガラパゴス」と呼ばれている固有の自然を重要視しない計画に、NACS-Jは賛成できませんでした。意見書の提出、委員会への参画、地元島民との意見交換、事業主体との交渉などを繰り返した結果、2001年9月、都は大規模な自然破壊を伴う空港計画は断念し、島民の生活改善のために高速船を就航することになりました。

map **5**

福井県中池見の湿地・・・LNG基地建設を断念、みぢかな自然の価値を問い直す

1996年に県の承認を受けた大阪ガス(株)による開発計画。多くの貴重な動植物もくらししているみぢかな自然を失うまいと力を尽くした地元会員の方々の思いが実を結び、2002年4月に計画は中止。これには、NACS-Jが20年にわたって取り組んできた植物のレッドデータ・ブックに関する研究も役に立ちました。現在は、地元会員の皆さんが中心となって湿地の今後について検討を始めています。

map **2**

群馬県三国のダム・リゾート中止のその後・・・クマタカの若鳥は今日も元気です

一昨年にダム・リゾート計画が中止された後、林野庁「緑の回廊」の一部に指定されるなど状況は大きく好転しています。地元グループによる猛禽類の観察は今も続けられており、「4月中旬、親鳥を追いかけるクマタカの若鳥を頻繁に見ました。でも、まだ飛翔力が十分でないため、途中であきらめて親鳥を待っていたりします」という報告が届きました。イヌワシやクマタカのような森の生態系の頂点に立つ生き物が安定して子育てができる環境をこれからも守っていききたいものです。